

市立病院検討特別委員会行政視察報告書

市立病院検討特別委員会の行政視察を実施した結果について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 期 日 令和4年11月16日（水）、17日（木）
- 2 視 察 地 新庄市
米沢市（オンライン）
- 3 目 的 （1）県立新庄病院
「県立新庄病院の改築整備に至るまでの経過及び改築整備の内容について」
（2）米沢市立病院
「米沢市立病院の建替整備に至るまでの経過及び建替整備の内容について」
- 4 参 加 者 柏 倉 信 一 後 藤 健一郎
阿 部 清 渡 邊 賢 一 太 田 陽 子
柏 倉 勝 郎（議会事務局）
- 5 視 察 概 要 別紙のとおり

令和4年12月13日

市立病院検討特別委員会
委員長 柏 倉 信 一

寒河江市議会議長 國井 輝明 殿

県立新庄病院の視察概要

平成27年1月、知事に最上管内の市町村長、医療、福祉、経済界代表者が5万人の署名を集め、陳情してから地域一丸となって取り組み、病院改築整備基本検討委員会・基本構想検討委員会、そして荒澤病院事業管理者を委員長に9名の専門科が専門科会議を結成し、基本計画に着手。来年10月の新病院開院を目指している「県立新庄病院」。最上二次医療圏唯一の中核病院だけに、とにかくスケールが大きい。地下1階、地上6階で、延べ床面積25,818.1㎡。地上ヘリポートを整備し、診療科は現在の18科にプラス9科、医師約50名位を配置との事。病室は個室・4床室とし、各病室に洗面台とトイレを設け、車椅子等での移動がスムーズにできるように、ベッドサイドのスペースを確保し、窓を大きく取り、自然光を十分に取り入れる。窓の腰の高さを低くし、患者がベッドに横になっても外を見られる計画。窓には網戸を小さく整備し、必要以上に空かないよう安全にも配慮されて、まさに近代建築と言えそうだ。

ただ、少子高齢化の時代に、これだけの規模の病院を整備して、将来の運営に不安を感じられる。最上圏域の人口と寒河江・西村山の人口を比較して大差は無い。もちろん、こちらの状況とは、近隣を取り巻く病院も大分異なっているが、約200億の予算である。しかし、近隣の地理的状況からすると救急救命は外せないだろう。今後の人口動態を考えると近隣自治体の公立病院・近隣病院（徳洲会病院等）との連携も重要なポイントとなりそうである。我々は、寒河江西村山の今後の人口動態、近隣中核急性期病院との医療機能分担などを視野に考えなければならないと思う。課題は、今後需要が増大する初期医療・介護・リハビリなどに対応でき、費用対効果をあげられる体制が求められていると考える。

米沢市立病院の視察概要

平成24年9月、米沢市立病院の在り方に関する委員会を設置（7回開催）。平成25年6月、病院内部に市立病院建替検討委員会を設置（12回開催）。平成26年6月、議会に市立病院建替特別委員会を設置（21回開催）。米沢市立病院建替構想を策定し、基本計画の策定に着手。平成28年、精神科外来を閉鎖。米沢市立病院と三友堂病院との連携を協議。平成29年、米沢市医療連携あり方検討委員会を設置（6回開催）。こうした過程を経て、平成31年、基本計画・基本設計。令和3年、実施設計から建設工事に入って現在工事中である。多くの人と長い時間をかけ、ここまで進んできた。少子高齢化の波は何処でも一緒である。市立病院と三友堂病院が、二つとも類似して医療を提供することは、医療スタッフの確保にはかなり厳しかったとの事。存続そのものが難しい。このまま進めば、米沢の救急医療が大変なことという考え方から、この構想は始まったようだ。公立病院と民間病院が同じ建物に入り、公立病院は急性期医療を担い、民間病院は回復期の機能を主体に担う。それプラス、精神医療（米沢こころの病院）の維持を継続する。しかし、ここまで進んできた事は並大抵なことではできない。関係各位のご尽力に心の底から、敬意と感謝を申し上げたい。急性期の治療を終えた患者が、同じ建物の中で回復期の治療を受ける。異常が見つければ、すぐに急性期の治療を受けられる。この施設が完成したら、医療スタッフのコミュニケーション・連携も容易になる筈である。ただ、公務員としてのスタッフと民間の医療機関では、処遇の面で大分違うのが気付きである。こうした垣根をどうクリアしていくのか、医療スタッフ始め、関係者の頑張りを期待したい。このような多くの課題を解決してきたのだから、今後の医療施設のモデルとなる筈、注視していきたいし期待したい。